



TITLE:

星座と星名(改訂稿)(2)

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 星座と星名(改訂稿)(2). 天界 1943, 23(262): 129-133

ISSUE DATE:

1943-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168582>

RIGHT:

星座と星名 (改訂稿) (2)

On the Constellations and Star-names.

山本 一 清 Issei Yamamoto.

それで人により場合によつて星座の區分法は一致しない場合があつた。例へば牛座ベ星は殆んど駁者座との境界線上にあるから、駁者座ガ星と呼ぶ人もある——だから此の星を外にして駁者座にはア星、ベ星、デ星はあるけれど、ガ星は無いことになつてゐる。同様に、アンドロメダ座のア星は、ペガソス座のデ星とも呼ばれ、又、天秤座シ星は蝸座ガ星とも呼ばれる。しかるに近年に至つて、國際天文同盟の決議により、1875年度の赤經赤緯線に沿つて新たに星座の境界線が確立した。しかし、又一方から考へると、星座が星の位置を言ひ表はす唯一の方法であつたのは、昔しのことで、今は赤經赤緯等でいくらでも精密に之れを言ひ表はすやうになり、又之れが頗る明瞭なので、だんだん星座の元の用途は減じて來てゐる。そして極めて大ざつぱに星の位置を語る場合と、又單に星を好む者の趣味の上から、見えるまゝの星の配列の美觀を言ふ場合にのみ、此の星座名を用ひるやうになつてゐる。

天體を觀測する場合の、最も重要なことは、まづ黃道の12星座を覺えることである。之には、其の名や形と共に、西から東への順序を覺えること。それから、これ等の星座中に於いて、春分點、秋分點、夏至點、冬至點の位置や、赤道の位置をよく覺えることである。次ぎに大熊と小熊(又は、北斗と北極星)

ギリシャ文字の表

文字	發音	略して	文字	發音	略して
α	アルファ	ア	ν	ヌ	ヌ
β	ベータ	ベ	ξ	クシ	クシ
γ	ガンマ	ガ	ο	オミクロン	オミ
δ	デルタ	デ	π	ピ	ピ
ε	エプシロン	エプ	ρ	ロ	ロ
ζ	ゼータ	ゼ	σ	シグマ	シ
η	エータ	エ	τ	タウ	タ
θ	テータ	テ	υ	ウプシロン	ウ
ι	イオタ	イ	φ	ファイ	ファイ
κ	カプタ	カ	χ	ヒ	ヒ
λ	ラムダ	ラ	ψ	プシ	プシ
μ	ミュー	ム	ω	オメガ	オ

を充分に覺えて、暗夜の亂雲の間から其の一部が見えるときにも、すぐ其の正しい位置を辨別し得るやうに習得しなければならぬ。大熊と小熊が分れば、其の間に横はる龍を見出すことも容易であらう。北斗の尻尾の線を延ばして、牧夫と乙女を見つけ出すこと、又、北斗と牧夫との間に、獵犬を見出すことも、形や神話の連想から容易であらう。乙女の遙か南方には、センチウルや十字架があるといふことを、敢へて南方に住む人でなくても、知つて置くことは、今日の大東亞時代人には常識であらう。夏は、銀河の兩側に七夕の夫婦星を含む琴座と鷺座とが見易い位置にあるが尙、序でに、天頂の銀河の中程に白鳥座が大きい翼を擴げてゐること、及び、牽牛と織女とデネブと北極星との四星が大きい菱形になつて居ることを知つて置くのは便利である。夏の南空には蝸と射手とがある。何れも大きく立派な星座であるから、是非よく覺えて置かねばならぬ。蝸と琴との間には、蛇と蛇使ひとヘルクレスとが大きく擴がつてゐるが之は初めての人には覺えにくいかも知れない。しかし、甚だ重要な天空であるから、よく習得する必要がある。

配列の形により覺えるものの表

秋はペガソス座の正方形を天頂に見出すことと、カシオペヤの W 形を北天に發見することが肝腎である。この二星座の間にはアンドロメダ座があるし、其の東際にペルセウスがあり、カシオペヤの西隣にはセフェウスがある。又、赤道から南へかけて鯨がある。此等の星座は、皆エチオピア王家の説話に關連するものであるが、星の配列は覺えにくい。

北	斗	大熊座中の七星
南	斗	射手座中の六星
鎌	形	獅子座の西部
三	つ	オリオン座の中央
す	ば	牛座の西部にある微星群
五	角	駁者座
正	方	ペガソス座
十	字	十字架座
〃		白鳥座
四	邊	鳥座
〃		龍座の頭部
W	形	カシオペヤ座

冬の空はオリオンを中心として、牛、駁者、双子、大犬、小犬などの明るく美しい星座を覺えることが必要である。駁者座の五角形や、オリオンの三つ星は好い目標になる。エリダン河などは、慣れないうちは、覺えにくい。

春は北斗や獅子が天頂に歸つて來る季節である。この頃、赤道以南にはヒドラも現はれるのだが、星が淡いので、急には覺えられないだらう。

臺灣以南へ行く人は、南十字とセンチウルの有名な兩星座を、誤りなく覺えるべきである。どうかすると、アルゴ船の中に十字架らしいものを見誤ることがあるから、注意を要する。南極には南極星が無い。只、十字架の星座の位置からぼゞ其の見當をつけるだけである。

星座を初めて學ぶ者にとつて、星の並び方と星座の名とが互ひに何の聯絡も無いのが少なくないので頗る難儀する場合が多い。たとへ初めには教科書を見

て人物や動物の形などゝ、其の星々の位置とを覚えるにしても、唯、ちらばらと並んでゐる形を見て、セフェウスやカシオペアや駭者やアンドロメダや、いろいろ々と態とらしい連想を餘儀なくさせられるのは困難なものである。何故あの星々を琴といひ、鶯と考へ、羊と想像しなければならないのか？ 現代の吾人は平素のものゝ考へ方が、昔の人のやうや呑氣な、念の入つた想像生活を煩はしいとし、總てを手取り早く、要領を得ることのみ慣らされてゐるから、上に擧げたやうな星座に、全く古人の持つてゐた心持を以つて親しむに至るまでには、一通りの勉強ではむづかしいかも知れない。

しかし、むづかしいといふのも程度問題で、例へば一寸見て、むづかしさうであるが、中には案外うまく覚えられるのも無いではない。ペルセウスや牧夫やオリオンや牛や双子や犬犬などは、一度其の形に親しめば、豊富な清新な又奇抜な古代ギリシヤ人の想像力が、目のあたり吾人のそれに共鳴するのを感じ

一 等 星 の 表 (*印は日本内地で見られぬもの)

番號	符	號	星 の 名	光度	スペクトル型	備考
1	おはいぬ座	α CMa	シリウス(天狼) Sirius	^等 -1.58	A0	二重星
2	{りうこつ座 (アルゴ座)	{ α Car (α Arg)	カノープス(老人星) Canopus	-0.86	F0	
3	*センタウル座	α Cen	—	0.06	G0-K5	二重星
4	こと座	α Lyr	ゼーガ(織女) Vega	0.14	A0	
5	ぎよしや座	α Aur	カペラ Capella	0.21	G0	連星
6	まきを座	α Boo	アクトウル(大角) Arcturus	0.24	K0	
7	オリオン座	β Ori	リゲル Rigel	0.34	B8p	二重星
8	こいぬ座	α CMi	プロシオン Procyon	0.48	F5	二重星
9	エリダン座	α Eri	アケルナ(水委) Achernar	0.60	B5	
10	*センタウル座	β Cen	—	0.86	B1	
11	わし座	α Aql	アルタイル(牽牛) Altair	0.89	A5	
12	オリオン座	α Ori	ベテルギウス Betelgeuze	0.1-1.2	M0	變星
13	*じうじか座	α Cru	—	1.05	B1	二重星
14	うし座	α Tau	アルデバラン Aldebaran	1.06	K5	
15	をとめ座	α Vir	スピカ(角) Spica	1.21	B2	
16	ふたご座	β Gem	ポルクス Pollux	1.21	K0	
17	さそり座	α Sco	アンタレス(大火) Antares	1.22	M0-A3	二重星
18	みなみうを座	α PsA	フオマルホウト(北落師門) Fomalhaut	1.29	A3	
19	はくてう座	α Cyg	デネブ Deneb	1.33	A2p	
20	しし座	α Leo	レグルス Regulus	1.34	B8	
21	*じうじか座	β Cru	—	1.50	B1	

て、長く眺めておればゐる程、去り難い趣きを感じるものである。大熊や小熊の形も、よく味へば中々棄て難い。自分は若い頃、夏の天を仰いで、蛇座と蛇使ひ座の形を初めて知つた時、一寸眼には何ものも無いやうな無秩序の中に、實は一定の秩序が整つて、天上無比の巨漢が、蜿々と横はる大蛇を繰つる壯觀を、面と向つて見た時は、思はず快哉を叫んだのを今でも覚えてゐる——其れ以來、自分にとつて夏の天に最も親しいものは今尚ほ此の蛇使ひ座である。

蝎や北冠や獅子や三角などは、其の名の通りの形と見るのに誰も異存はあるまい。エリダンや白鳥や鯨などは餘り大きなことは言へないが、しかし決して覺えにくいものではない、唯、乙女や射手やヘルクレスと來ては少からず閉口する。況んや近代發案の六分儀だの時計だの望遠鏡だの顯微鏡だのに至つては言語道斷である。形と名と添はないもので、むしろ全く別の聯想により吾人の腦裏に入り易いものは北斗（大熊座の一部）や三ツ星（オリオンの一部）である。昴（牛座中）にも特徴がある。南國の人にとつては十字架など、名其のままで、御馴染み深いものであらう。

星座に親しむことによつて、いろいろ實生活の利益を得ることは多いが、特に氣象觀測家のためには、之れが頗る重大な結果を起すことがある。即ち、夜の空には薄雲が浮いてゐるや否やは、是非豫め星座によく親んでゐて、平素馴染みの微星が見えかくれすることによつて、判斷しなければならぬ。此の素養が無いために、夜の空に單に星（實は巨星のみ）が見えてゐるから晴天と觀測し、實は卷雲の襲來を知らないで、天氣の判斷を誤まる場合は少くない。

近時の戰爭に於いて、軍人は一般に此の星座の智識が、野外に於ける自己の位置や時刻の認識に頗る重要視されてゐる。

個々の星を呼ぶのに、星座の名を冠しないで、星の目録の番號を用ふることが多くなつて來たことは、前にも一言した通りである。特に今こゝに目録の中で屢々用ひられるものゝ數種を挙げよう。

第一はボン星表 (Bonner Durchmusterung 略して B.D.) である。此の星表は（以下皆同様であるが）星が總て幅一度づゝの赤緯帶に其れ々々一括されて、赤經順に記載されてある。故に例へば B. D. +18°2531 とあるのは「ボン星表の、赤緯第 18 度の帶の第 2531 番星」といふ意味である。この記載では、唯、其の星の赤緯が略々分るといふだけで、赤經は之れだけでは殆んど不明であり、從つて何の星座に屬するのといふことも殆んど分らぬ（特に熟練した人を除いては）。誠に無味乾燥な言ひ表はし方であるが、何しろ幾十萬といふ多數の星を、比較的簡単に、又、一樣の様式で言ひ表はさうとすれば、止むを得ない。實際恁な場合には、星座の如何は問題で無いのである。

次に又、

C. D.—36°15627 は南米コルドバ星表 (Cordoba Durchmusterung) の赤緯南 36 度帯の第 15627 星

C. P. D.—72°2757 は南亞喜望峰寫真星表 (Cape Photographic Durchmusterung) の赤緯南 72 度帯の第 2757 星

尙又、世界各國の天文臺が、數十箇所聯合して組織せる天文協會 (Astronomische Gesellschaft) の一事業として、1883 年以來、一定の約束の下に着手した目録作製部の出版物として A. G. Catalog (Astronomische Gesellschafts Katalog の略) なるものを出してゐるが、之れに依れば各天文臺が各々或る赤緯帯だけを分擔してゐるため、次の様な書き方をする。

A. G. Albany 5901 即ち、オルバニ天文臺分擔の目録の第 5901 番星

しかし、尙又、變星、二重星、星霧、星團等には、それぞれ特別の目録があつて、其の番號を用ひることが普通であるし、更に光度を重なる目的として作製したハバブアド光度目録 (Harvard Photometry 略して H. P. 及び Harvard Revised Photometry 略して H. R.) や、ポツダム光度目録 (Potsdamer Photometrische Durchmusterung 略して P. D.) などの記載番號を呼ぶこともある。(終)

“星座と星名”の正誤表 (天界第261號)

	誤	正
第98頁, 2行目	バルチウス	バルチウス
〃 3行目	Heveiius	Hevelius
第95頁, 下ヨリ6行目	左の3種類	下の3種類

會員各位より“天界”の原稿を歓迎す

投稿規定は、1、ひだり横書きとすること。2、本誌1ページは35字づめ35行であるから、適當なる原稿用紙を用ひ、なるべく編輯に便利なるやうに書くこと。3、圖畫の原稿は、寫眞で縮寫の必要があるため、必ず墨又は黒インキにて明瞭に、なるべく大きく書くこと (赤や青のインキ、又、鉛筆で書いたものは製版困難につき必ず墨か黒インキのこと)。4、用紙節約のため別刷(抜刷)はなるべく遠慮節約されたい。是非入用の方は、あらかじめ其の部數を編輯係に申し込むこと。但し、之れは、實費を本會會計へ申し受けます。5、原稿メ切は毎月末。6、御投稿その他編輯事務については、

滋賀縣草津町大路井420 山本進氣附 天界編輯係 へ

故中村 要氏著
木邊成麿氏補訂

反射望遠鏡 A5判 二百餘頁 定價3圓 送料20錢

本會でも取りつぎいたします。